

小学校 第3学年 国語科学習指導略案

1 単元名 せつめいのくふうについて話し合おう（すがたをかえる大豆）

2 単元の目標

- (1) 食べ物について書かれた読み物や図鑑などを、興味をもって読もうとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) 中心となる語や文、段落相互の関係を考え、文章を正しく読み取ることができる。
(読む)
- (3) 情報を収集したり取捨選択したりしながら、段落に分けて文章に書くことができる。
(書く能力)
- (4) 文章全体における段落の役割を理解することができる。
(言語)

3 本時の指導（2 / 1 3）

(1) ねらい

- ・各段落で、何を、どのように説明しているのか考えることができる。

(読むこと)

(2) 研究テーマとの関連

学校課題「豊かな表現力をもった児童の育成」～自分の思いを自分の言葉で伝え合う力を育てる指導の工夫～を受けて、本時では次のことに留意して指導していきたい。

これまで教科指導の中で、ペア学習を取り入れ、自分の考えを伝え合う活動も行ってきた。しかし、友達の発表にしっかり耳を傾ける児童は多いが、友達の考えと自分の考えをつなげて話すことや、友達の考えを聞いて自分の考えをより高めていくことに関しては個人差が大きい。また指導者自身も教材と子どもをつなぐことはできても、子ども同士の感じ方をつなぐことが不十分なまま授業を進めてしまうことがある。そこで、指導者の立場として、一人一人の考えやその根拠をどう全体に返していくか、それぞれの考えをどうつなげていくかを意識しながら指導していきたい。

また、本時のねらいに迫るため、教科書の文章のみを示したプリントと、その文章の内容を分かりやすく伝える写真を分けて提示する。それぞれの段落にはどの写真がふさわしいかを考えさせることで、文章を深く読み、根拠となる表現を捉えさせたい。また、友達同士、自分の考えやその根拠を友達に説明したり、伝え合ったりする活動等をさせていく中で、自分の考えがより確かなものなると考える。学習過程の後半には全体で学びあう活動を取り入れ、中心となる語や文をとらえ、写真と照らし合わせながら、どの考えがよりの確かなのかを検討させていきたい。

(3) 展開

☆研究テーマとの関連

ポチェックポイントとの関連

学習活動	時間	指導上の留意点	評価及び評価方法
1 本時のめあてを知る。 それぞれの段落で、何を、どのように説明しているか考えよう。	7	<ul style="list-style-type: none"> 教材文に関するクイズを出題し、意欲付けをする。 本時のめあてを確認し、学習の見通しをもたせる。 本時のポイントとなる「段落」について、確認をする。 	
2 文章を読んで、どの段落にどの写真がふさわしいかを考える。 ・個 ・ペア ・全体	25	<ul style="list-style-type: none"> 写真を提示し、中心となる言葉や文と関連させながら、段落にふさわしい写真を選択させる。 ⓑ机間指導をして、叙述を基に自分の考えを書いているかどうか把握する。 ☆学級の仲間は自分の学びを深めていくために大切な存在であることを子どもたちに気付かせ、聴き合い学び合える雰囲気意識させる。 ☆全体での学び合いでは、自分と異なる考えを理解し合ったり、補い合ったりできるよう、子ども同士の考えをつなぐことを大切にする。 	<p>(読むこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各段落で、何を、どのように説明しているのか考えることができる。 <p>[発言・観察]</p>
3 最後の段落には、どんな写真がふさわしいか考える。	10	<ul style="list-style-type: none"> 最後の段落に表現された言葉や文を基に、2の活動の学習を生かして、読者に内容を分かりやすく伝えるには、どんな写真を提示するとよいかを考えさせる。 ☆友達の考えを聞く際には、自分の考えとどこが似ているのか、どこがちがうのかを意識させ、主体的に聞く態度を大切にしたい。 	
4 本時のまとめをする。	3	<ul style="list-style-type: none"> この時間のがんばりを認め、次時への意欲を高める声かけをする。 	

(4) 評価

- 各段落で、何を、どのように説明しているのか考えることができたか。

(読むこと)

〈授業参観の視点〉

- それぞれの段落の中心となる語や文を捉えさせるために、ふさわしい写真を選択させる学習活動は、適切であったか。
- 自分の考えと友達の考えを比べながら聞くために、「つなぐ言葉」を意識させたが、効果的であったか。

すがたをかえる大豆

国文 牧衛

わたしたちの毎日の食事には、肉・やさいななど、さまざまないりようが調理されて出てきます。その中で、ごはんになる米、パンやめん類になる麦のほかにも多くの人がほとんど毎日口にはしているものがあります。なんだか分かりますか。それは、大豆です。大豆がそれほど食べられていることは、意外と知られていません。大豆は、いろいろな食品にすがたをかえていることが多いので気づかれないうのです。

大豆は、ダイズという植物のたねです。えだについたさやの中に、二つか三つのたねが入っています。ダイズが十分に育つと、さやの中のたねはかたくなります。これが、わたしたちが知っている大豆です。かたい大豆は、そのままでは食べにくく、消化もよくありません。そのため、昔からいろいろ手をくわえて、おいしく食べるくふうをしてきました。

いちばん分かりやすいのは、大豆をその形のままいったり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。いると、豆まきに使う豆になります。水につけてやわらかくしてからになると、に豆になります。正月のおせちりょうりに使われる黒豆も、に豆の一つです。に豆には、黒、茶、白など、いろいろな色の大豆が使われます。

次に、こなにひいて食べるくふうがあります。もちやだんごにかけるきなこは、大豆をいって、こなにひいたものです。

また、大豆にふくまれる大切なえいようだけを取り出して、ちがう食品にするくふうもあります。大豆を一ばん水にひたし、なめらかになるまですりつぶします。これに水をくわえて、かきまぜながら熱します。その後、ぬのを使って中身をしぼり出します。しぼり出したしるにがりというものをくわえると、かたまつて、とうふになります。

さらに、目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもあります。ナットウキンの力をかりたのが、なつとうです。むした大豆にナットウキンをくわえ、あたたかい場所に一日近くおいて作ります。コウジカビの力をかりたものが、みそやしょうゆです。みそを作るには、まず、むした米か麦にコウジカビをまぜたものを用意します。それと、しおを、にてつぶした大豆にくわえてまぜ合わせます。ふたをして、風通しのよい暗い所に半年から一年の間おいておくと、大豆はみそになります。しょうゆも、よくにた作り方をします。

これらのほかに、とり入れる時期や育て方をくふうした食べ方もあります。ダイズを、まだわかくてやわらかいうちにとり入れ、さやごとゆでて食べるのが、えだ豆です。また、ダイズのたねを、日光に当てずに水だけをやって育てると、もやしができます。

このように、大豆はいろいろなすがたで食べられています。ほかの作物にくらべて、こんなに多くの食べ方がくふうされてきたのは、大豆が味もよく、畑の肉といわれるくらいたくさんえいようをふくんでいるからです。そのうえ、やせた土地にも強く、育てやすいことから、多くのちいきで植えられたためでもあります。大豆のよいところに気づき、食事に取り入れてきた昔の人々のちえにおどろかされます。